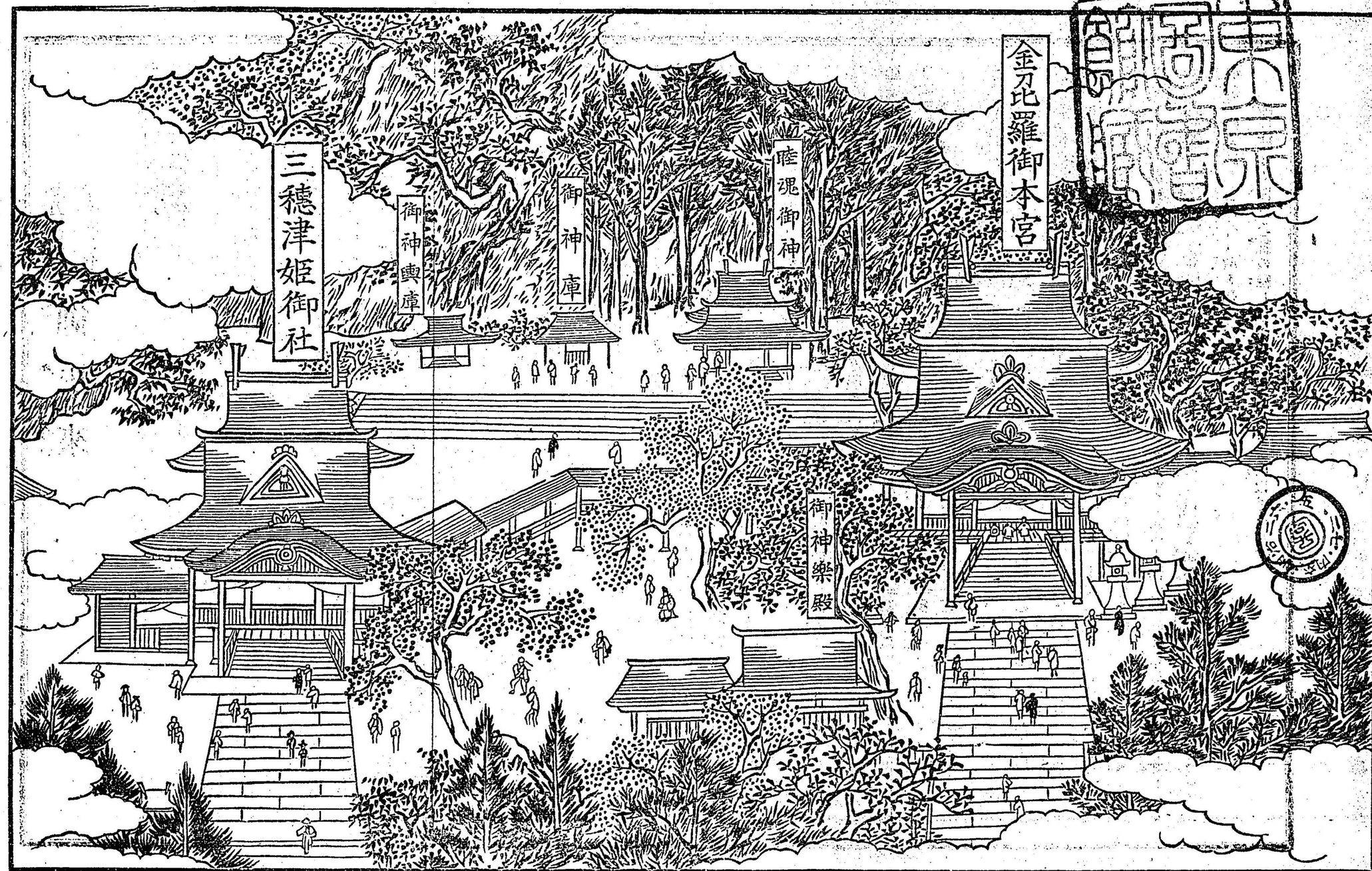
2R-17
特10
389

金刀比羅宮御由來

附琴平十二勝之事

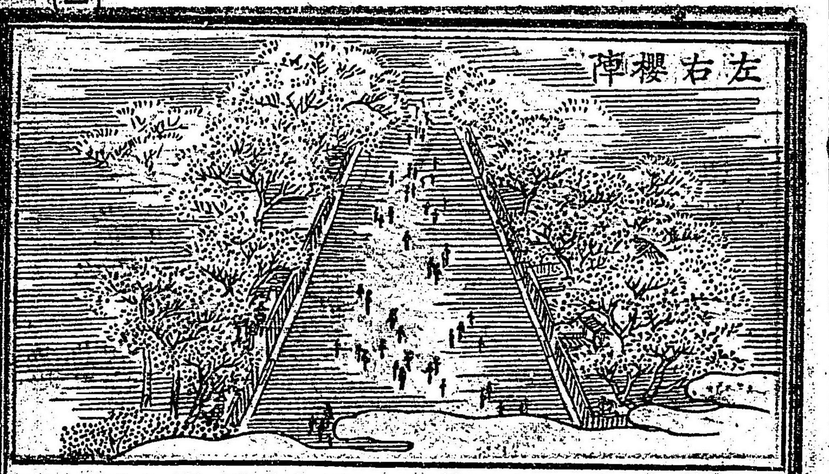

三穗津姫御社
御神輿庫
御神庫
陸魂御神
金刀比羅御本宮
御神樂殿

金刀比羅神社
崇德天皇合祀

御由來

大日本帝國讃岐國那珂郡金刀比羅宮の御正殿に鎮り座すゝ大物主の大神に座々して畏くも天の祖天照皇大神の御弟神素戔嗚尊の御孫に座す大國主の大神の幸魂奇魂にそゝる又御相殿に鎮り座すは天の孫彦火瓊々杵尊より七十九代崇德天皇に座々して永万元年七月に合祀し奉る抑も大國主の大神ゝ亦の御名を大物主の神國作大已貴命葦原醜男の神八千戈神大國玉の神顯國玉神等數多の御名を負ひ給ひしは大神天下を經營し給ひて田疇を闢し賦役を均一にゝし醜醜呪祝醫藥等の方を創め疫病を療し牛馬雞犬の類を飼育する道を立て事物を蕃殖し野鳥狐狸蝗蟲百を傷害する災異を除き又暴惡の邪神を追ひ攘ひ又水火の難を救ひ給ひて百姓を安耕せしめ給ひしにより其の効績を賞し又は其の成德の美を號し或ゝ其の武威侵すへからざるを美稱せしゝ故に大國主の神と稱せしゝ天下を經營し大國を領し給ひし御名あり又大物主神と稱せしゝ天津神の勅ありて大物を賜ふ意則ち國津神八十万神を統率し政官の司さとあり給ひによる又國作大已貴命と稱せしゝ國を作り給ひし美號にして則ち蒼生必需の事物を創め邪神を攘ひ國家の蒼生を安穩あらしめ給ふよる是れ蒼生ゝ國家の大本あれゝるり又葦原の醜男と稱せしは威勇畏るへき天下の英雄と言ふ意よして其の御威勢を賞譽せし御名あり又八千戈の神と稱せしゝ廣才を以て國を平げ給ひし等武備の整嚴あるを賞せし御名あり又顯國玉神と稱せしは既に國土を經營し給ひし其の威德の美號にして躬に八坂瑣の瑞を被ひ給ひしを賞せし意なり又大國玉神と稱せしは大國を平げ給ひし其の効業により國の御魂神と崇め奉りしありさて大物主の大神琴平山の彌高き雲氣深く鬱さて八雲立ぬる瑞雛の清き岩根に宮柱大く廣く敷き營り鎮り座々々せしゝ遠く神代の昔にして今を去ること三千年に近き故其の月日ゝ詳に考ふべからざるも大神の御稜威著にして天下蒼生の水難火災風雨の憂を除き疫病を攘ひ福利を與へ給ひし神德靈驗の著たるゝ普く世人の知處にして常に參詣の諸人陸續として絶へさる所以あり又當山ゝ象頭山と稱し金比羅大權現と崇とみ奉りしが明治元年に至り畏くも王政復古の御聖代とあり兩部神道は悉く正義名分を瞭然たらしめ仝年六月詔勅ありて事比羅神社と改め給ひ神祭仰せられ象頭山をも琴平山と改稱し宮司以下神官を置き唯一神道とあし尋で明治四年六月國幣小社に列せられ仝十八年五月に至り更に國幣中社に列せらる又明治廿二年七月に至り事比羅宮の文字を改て金刀比羅宮とあし給へり又當社は維新以前ゝ御朱印地ゝして社領三百三拾石ゝありて御宮殿も最と屢々御建替りありしも遠くゝ記するゝ遑なく近くゝ天正元年ゝ新よ御造營ゝありて仝拾一年修覆せり夫より七十六年を經て万治二年ゝ至り金銀珠玉を鏤め彩色を施し粲然たる宮殿ゝ御造營ありしが夫より二百十年の間は絶て造營ることなく漸く明治十一年に至り舊摸を改革し毫も彩色を用ひす清淨潔白を主とし悉く白木の良材を以て新ゝ御造營せられ屋根ゝ檜皮葺にして御拜殿の正面上ゝ金の菊章を掲げ宮殿煌々たり是れ即現今の御本宮あり又御相殿に祀りし崇德天皇は御諱は顯仁尊よ座々して保元の亂後當國に遷御あらせられしが其の後當琴平山に御參籠あらせ給ひたるゝより其の處を稱して御所尾と云ふ後長寛二年八月御年四拾六歳ゝて當國阿野郡青海村白峰よ於て崩御あし給へり因て御參籠の緣りを以て長寛三年御神靈を當金刀比羅宮へ合祀あし奉りしあり故ゝ御陵は白峯よ巍然たり因よ云ふ此の白峯には天皇御製の歌ゝ感し杜鵑今よ聲を發せすと云へり

啼けばさく聞けど都の戀しきゝ此の里とすぎよ山はとゝぎす



三穂津姫神社

三穂津姫御命の鎮り座すは御別宮殿よりして命は大物主の大神の御妻神ゑ座々て高皇産靈尊の御姫神あり初め天津神經津主神武甕槌神の二神をして葦原中國を平定せしめ給ふとき大物主の大神自ら音楽とあり八十万神を天の高市お師ひて其誠欵の至りを陳奏し給ひたり此のとき高皇産靈尊の詔勅ようて御配偶あらせられしこと日本書記ゑ見へたり

琴平十二勝

左右櫻陣

左右櫻陣とは所謂櫻の馬場の稱ようして大門より金刀比羅社務所の下迄を云ふ其の間は道路端正ようして中央ゑ石を敷き左右ゑ數百本の櫻樹ゑり其の花は種々異樣ありて花時ゆ風景最も美麗なり故ゑ參詣の諸人皆ゆ好時季に遭偶し

太閤は至れは花卓蹴鞠として極目雲の如く飆紅雨を飛し
て碎錦霞を分つが如く百櫻千章左右に列植して治波鱗々
數里に瀰漫するが如く始め際涯あるに似たり故に遠國の
旅人と雖ども忽一見心醉して亦數百里の廣路あるを忘れ
花間に躊躇し大陽西に沒するを知らざるに至れり賦詩曰く
步々昇山近自東。廻行櫻樹自還紅。黃鸝啁啾和音樂。是
亦琴平絶勝中

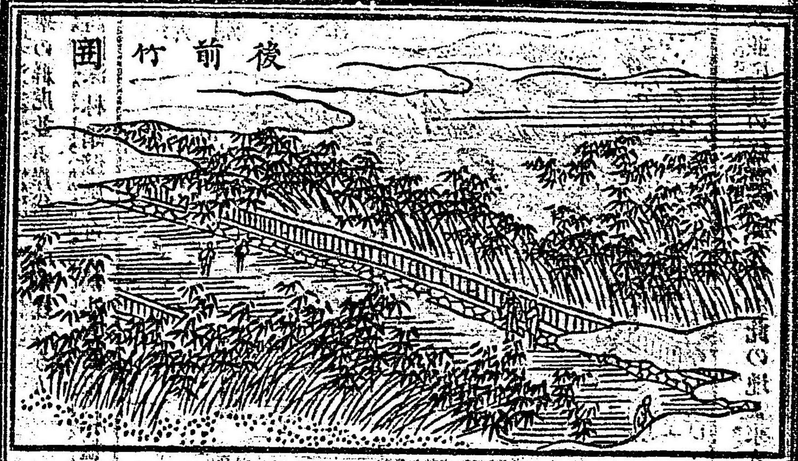
前池躍魚

池に金刀比羅社務所の上邸黑門内の舍殿側面の庭あり
て小池なれども其の樣最も風致を極め鯉魚龜屬多く住み
て常に水面に游泳せり元來此の池は人工を以て築造せし
ものなりしも其の時代の古きと雅致巧を盡したるとに依
り自から天然の趣をなせり因に云ふ此の舍殿は其の構造
甚だ廣大にして千疊敷の稱あり其の壁間に揮毫したる畫
と何れも大家の筆にして就中最も有名高評を得たるは應

翠の群峰並に岸岱の千羽蝶等あり
高閣深林皓壁飛。奇巖精水本雲來。柏樹枝餌金鱗出。是亦琴平絶勝中

石淵新浴

石淵新浴は潮川神事にして阿波町の南端金
倉川石淵に臨みたる數百歩の地白砂老松蓊
鬱として地を蔭ひ玉瑞を掛へ關門を鎖し平
素漫りに其の内に入ることを禁ず是れ卽潮
川神事場なり其の北は連續する梅桃園は土
地廣さ二非ずと雖ども五歩に一株十歩に一
樹繁粗枝を交へ濃淡葬を鬪す川を隔て琴
平遊觀地と相對し花時の風景最も美を極め
り抑も潮川神事と云ふと毎年九月八日を以
て神尸被潔垢離の儀を行ふ稱呼にして是れ
を大祭の主務と云ふべし仝日と上頭八下頭
人並に其の從者數多を率ひ此の地に來り交宮司以下神官等茲に濯で之れを纏る其の儀式の盛



而して今明治廿六年より六百五拾壹年以前なり
より傳りしが狹小なる故にて其の典を修せ給ひしは後醍醐帝
寛元元年なりしが正平年間に至り南北兩朝戰爭尚ほ止まず延て此の
尤も往古は多度津の海汀なりしが此の典を行ふべ恒例とな
せしが正平年間に至り南北兩朝戰爭尚ほ止まず延て此の
國内なりしも細川頼之等の兵ありて道路多くは梗塞する
を以て多度津の海汀行き此の式を行ふこと能ざるに依り
權宜に人を遣はして海潮を酌み取り來りて之を淵水に混し
以て神戸垢離の儀を行ひしが其れより以後は此の例を以
て常とし尚今に至れり故に此の儀式は潮川の稱ある所以
なり又毎年十月十日御神輿此の地に渡御なし給ひ大祭の
神事を執行し翌十一日午後に至り御本宮へ還御なし給へ
り因て此の地を神事場と云ひ所人此の淵に於て潮浴を以
て垢離の儀式を行ひしより十二勝の一石淵新浴の稱
あり詩に

砂白青松浴水渋〻氣氣神德拂清空○流傳千歲潮川式○是亦琴平絶勝中

後前竹園

後前竹園と金刀比羅社務所の下た櫻の馬場の西端に接續して道の左右を圍み谷を渡り峯に滿ち翠色蒼々たる竹林を云へり昔時は左右ともに道の際迄繁茂し居りしか現今は道に添ふたる處は共に取り除けたれども尚殘餘の万竹叢々として黛雲の翠〻の如し詩に曰く

俯竹猶々翠碧沖○新篁清籟自玲瓏○往來佳客方忘去○是亦琴平絶勝中

橋廊複道

鞘橋は内川の東端金倉川に架せり往古と此の橋を両郡橋と云へり個は此の橋より東を中郡と云ひ西を多度郡と云へり故に此の稱ありしも中世より東西共に那珂郡に屬し寛永元年橋上に銅板にて葺きたる屋根を設けたり因て鞘橋

ところ〻り故に雨露の侵さるを以て晝夜の別なく霜を某店を設けるなり四季とも其の眺め往も り就中夏季の風景最も好く涼風は肌を拭ひ來り橋下の清流は盤々鳴たり又遠方より之を望め 秦宮に非らざるも長龍の浪を臥すが如く 霧れざるに虹の生ずるかと疑ふ夕陽に至れ ば絶涼の群客踵を接す此の橋慶應二丙寅年 の洪水に流落せしを以て其の後又新に架設 せり現今の橋梁即是なり全く詩に 旅客方驚快霽虹半天廊屋渡西東清 流千里迎涼風是亦琴平絶勝中

裏谷遊鹿

裏谷に社務所の裏手の溪谷を云へり此の地 も閑雅幽邃にして東北の一方を眺望に富み 剩へ春の鶯鳥の朗聲咫尺に聞へ夏は綠樹蔭 鬱として清風袂間より起り炎熱を消す秋は 紅葉錦を布く〻如く鹿鳴幽に聽へて其の趣き最も靜韻を極めたり詩に

幽壑蕭々亂巒樅如雲如絮濃山紅穂翁遊伴鹿廊集是亦琴平絶勝中

万濃曲流

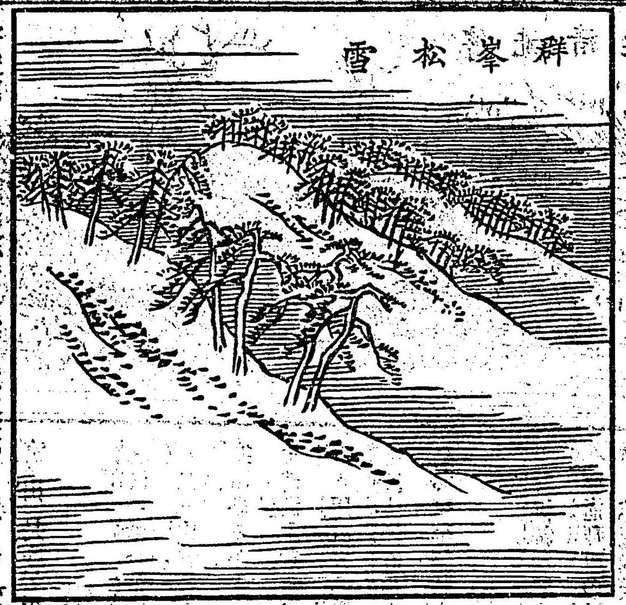
万濃池と千山万岳の間に狹まり阿波の國境 より聯綿たる九十九峯の谿水皆集りて此の池 に入り三四月頃に至れば勢水滿々として峰 巒の緑を寫し波漣曲岸を汰沙して變態百出 し山水秀潤奇逸にして江山寂落居然万里の 勢あり故に琴平町より東南一里餘を隔たり た る神野村大字東七箇にあるも雅人墨客に歩 を抜ぬ狂ぐる者多き又池の廣大なること四 國第一にして周廻二里三町餘あり堤防に万 濃池の神社ありて土人池の宮と云ふ祭神は 罔象女命なり元來此の社や池の中央にあり て大同三年二月建築せしも其の後に池の北を築くに付堤防を移せしと雖池は天然其の形をなし この如く三面は何れも山岳を以て圍み只北の一方のみ人工を以て堤塘を築き其の長さは僅々六十

間おして堤塘の根礎六十五間其乃上廣六間高さ直立十二間ばかり此の池の水を以て耕田ゑ灌漑
とすること實高ゑて三万五千八百十二石二斗ありしと云へり抑も此乃池の古を按ずるゑ明治廿
六年より遡るゑと一千七十四年ゑして人皇五十三代嵯峨帝の御宇弘仁十一年始て此の池を築
造せるゑとを企て大に土工を起し年を經るも落成の効を見を依て國人挙て當時京師ゑある僧
空海を召し還さんゑとを其の時の刺史清原夏野ゑ請て止を因て刺史情を具して之を上奏と故
ゑ空海勅を奉じて還り來り工事を督し衆を報ひ遂ゑ弘仁十三年落成の効を奏と因て勅して
空海ゑ新錢二万を賜ひ其の功績を賞せられしとぞ其の後ち堤塘洪水の爲めに崩壊し亦一滴の
水をも溜むる能くさるゑ至り國民大ゑ困難を極むるを以て寛永三年國主生駒讃岐守一正の臣
西島之尤ゑ命じて之れの修築の工事を監督せしめ漸く數年ゑ經て修築せるゑと故の如し然る
ゑ安政元年に至り搖樋ゑ少そく破損を生じたるゑ漸次ゑ之れゑ大破とゑり千丈の堤も蟻穴よ
り崩るとの里諺乃如く遂に仝年七月九日乃夜十二時頃ゑ至り堤塘一時ゑ崩壊し滿々さる池水
忽ち流出せり故ゑ之れか下流ゑ散在せる數村落は啊時ゑ洪水ゑ浸潤され多くの家屋人畜を流
亡せり其の慘狀見るゑ忍びす池と亦一滴ゑ水をも溜むる能ざるゑ至れり故ゑ直ゑ復築せる
ゑ方法立たざるゑより空そく十餘年を經過し漸く明治ゑ年間ゑ至り鷲高松藩士族松崎溢右衛
門榎井村乃住人日柳燕石及長谷川佐太郎等人民の困難を顧み自ら奮て工事を督ゑ堤塘ゑ添へ

る小山ゑ岩石を鑿掘し隧道を穿ち以て搖樋とおしされと方世不變亦搖樋崩壊ゑ及ぶゑ至れ
り此の池ゑ一名十千の池と云へり十千ゑ万おれはなり此の池水迅曲屈流ゑて金倉川ゑ入る是
れ万濃曲流ゑり詩に
青澗綿々不可窮。大江千里弄春風。溶々
流曲群村下。是亦琴平絶勝中

群嶺松雪

琴平群嶺の景色と雪朝万松の雪を凌ぐの趣
ゑ最も絶佳と云ふべし其の中飯山を以て冠
とす此の山は琴平町より北ゑ當り鵜足郡中
央ゑ蟠り其の形の富士山ゑ似たるを以て甚
だ高ゑと非らざれとも人呼で讃岐富士と
云へり其の山麓飯野村ゑ飯の神社あり飯頼
彦命を祭れり延喜式讃岐二十四座の一ゑし
て境内ゑ鎮住王の塚あり此の山は金刀比羅



御本宮の左手より正北に當り雲烟霞霧の上に其の頂を見る其の景極めて賞ぞし

座對銀峯巒不窺寒林松翠映增朧。一朝方化仙宮出。是亦琴平絶勝中。

箸洗清漣

箸洗の池は金山寺山愛宕神社の下にあり此の地は大樹森々たる山谷あるを以て人の訪ふなく稀なり殊に池水清潔塞冷あるにより盛夏の炎熱も忽ち洗ふが如く涼風徐に來て清漣を起す其の趣き幽雅と云ふべし因に云大祭の節頭人は用ひたる箸は悉く此の池にて洗ふを以て箸洗の稱あり箸洗清池有歳同。水紋浮出徐來風。久長無涸神靈德。

是亦琴平絶勝中

雲林洪鐘

雲林洪鐘は賢木門内にあり是の維新の際既に取り拂ひ現今は遙拜所の社あり昔日とは大に異りたり尤も此の地は大樹老木森鬱として日も御本宮に近きを以て茲に至れは奏樂の聲梢に響き最も幽閑にして天外より來りしかと思へり因て詩を賦して曰く

往昔洪鐘拂地空。維新遙拜亂傍宮。禍辭徽漏雲林響。是亦琴平絶勝中。

幽軒梅月

幽軒梅月は現今松尾寺のある處にして西隣に琴平尋常小學校あり東隣に國吉小林區署の支舍あり昔日乃趣きとは大に異なりさるも其の地高丘なるを以て眺望に富み觀月に適し然れども現今閑靜にして觀月に適し然れども赤梅樹も無に非ざるべし昔日の風景に聊か歩を讓らざるべし

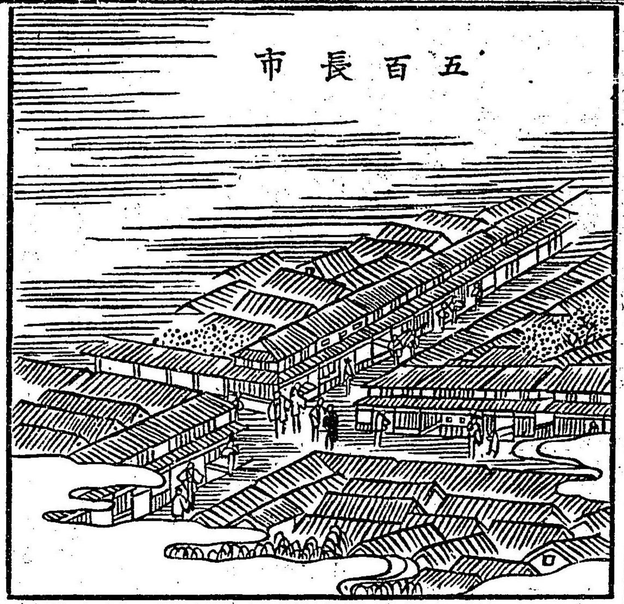
當の勝地に琴平山の北麓にて字小瀧と云へる地なり此の地は山脚の溪間にして東北の眺望に富み一二の庵りあり梅樹亦多きに非ざるも其の閑雅幽邃の地と云ふへし

廉外住塊落葉寒。林端明月馳蒼窮。梅花香散充幽舍。

是亦琴平絶勝中

五百長市

五百の長市とは概ね内町及び小坂等を指したるなり昔時は僅のに五百軒程の商家ありしが輓近に至りては飯に一千有餘軒ありて琴平全町戸數の半ばを過ぐ元來琴平町は其の中央を内町とし内町の東端より南北に流通する金倉川ありて鞘橋玄光橋及其他二三の橋梁を架せり此の川の東は新町富士見町金澤町阿波町今新町等あり西には内町金山寺小坂札の前愛宕町谷川町西山及ひ神明町湊町等ありて就中内町金山寺町等には妓樓ありて弦歌の聲曉に達せり又近來開墾したる四國々道は町の中央を貫通し讃岐鐵道は湊町に達し茲に廣壯なる停車場を構へり其の前面は國道にして多度津街道あり抑も諸國より金刀比羅宮へ參詣する道路は數多あるも大別すれば五岐に別れたり今其の概略を記せば先ず前の國見島郡田の口村より和船の便を得て渡航し來るものと



概ね丸龜町新堀福島等より上陸す此の海上七里に近く七里あれども源龜の航海なし又丸龜町より琴平迄約四里と四里ゝ迄しと雖ども此の間は國道あり鐵道あり國道より來れは金藏寺にて多度津街道に出て源車に乘るとき之多度津を經て琴平に達す又雷道より來たれば即ち富士見町の入口に鉾の鳥居あり此の右手に高燈籠ありて景色最も好し則ち琴平八景の一なり又德島及び高松等より陸行し來るものは痩非村及び今新町を經て鞘橋を渡り内町に入る又德島縣三好郡地方より箸藏を經て國道より來るものは遍觀地の裾を廻り右手に石淵神車塲を見渡し金山寺町より内町に入る又高知地方より來るものは牛屋口より谷川町に入り愛媛縣地方より陸行し來るものは多度津街道に出づ又多度津港より上陸すれと是より三里の國道及び鐵道ありて其の中間に弘法大師の誕生所屏風浦五岳山善通寺

尊あり此の道より來るものと湊町より内町に入る此の内町に旅館料亭を並べ何れも其の構へ廣壯なること目を驚かせり此れより御山へ登るには小坂札乃前等あり商家左右に並列し各家何れも名産を鬻く既に大門の前に至れば右に金刀比羅宮祟敬講社本部あり左には皷楼あり晝夜時を報ず是れは寳永六年の建築にして其乃傍らに清少納言の塚あり大門の内には五人の百姓と唱へ飴を鬻ぐ此れより櫻の馬場にして古左に櫻樹數百本あり其の間には石燈籠數百基ありて常夜火を點ず此れより登れば左に御馬屋あり常に神馬數頭を繫けり右は大門あり是れ即ち金刀比羅宮社務所にして其の内は御守所あり又大日本帝國水難救濟會本部並に金刀比羅宮保存會本部あり此の門前より旭社の下迄の左右には金百圓以上を奉獻したる人の住所氏名を彫刻したる石柱數百本を並列せり且つ此の間に休憩所あり其れ左手には木鳥三頭あり此れは寛文十三年高松少將頼重公の御建立にして三十石の神馬料を附け置れしことあり右手には黒門ありて常に鎖せり所謂千疊敷此の内には下り此れより登れば漱水所あり祓戸社牡丹園下馬札等あり今一段を登れば左に旭社あり右は休憩所にして前路には眞鍮の大鳥居并に賢木門あり是より登れば右に遥拝所あり又眞須賀の神社御年神社事知神社等あり既に御本宮拝殿の前庭に至れば右に漱水所御饌殿あり此の處には千尋の滝より臨み讃岐富士并に丸亀城市與島の燈臺等悉く雙眸の中に聚り雲烟脚下に生じて飛鳥の脊

を視るに至れり又右には御神樂殿神官扣所あり山手には睦魂神社神庫御神輿庫等あり又三穗津姫神社は南にあり御本宮より所廊あり其乃前には御炊舍嚴魂神社あり傍らには銅の大馬あり繪馬堂には二棟ありて何れにも數千面の繪馬を掲げり其の中森狙仙は猿谷文晁并に圓山應瑞乃能樂乃圖等大家の眞筆枚舉に遑あらず其他水難救濟乃器具船具信號錨等亦其乃數を知らず傍らに常磐神社菅原神社神官溜所あり是より下向すること三穗津姫社乃前より旭社乃傍に出て乱次小坂内町に復す此乃道筋と參詣人乃往復間斷なく殊に春季は如きに肩摩轂擦晝夜乃別なさ

ゞ如し實に長市乃名空しからぬ詩に曰く

長市吹貼聖代風千門呼鬻店亘豎旅人來往後去留是亦琴平絶勝中

金刀比羅宮御祭典

金刀比羅宮御大祭は何年十月九日十日十一日を以て執行し則ち十日午後六時頃御神輿神事場へ渡御あらせらる此れとき對岸は遊歡地にして其は燈火數發を打揚げ尋で紅火種々を發せり此乃ときは神事場には既に奏樂を始め山海は珍味種々は御饌物を捧げ樂を奏せしめ神事嚴にして參拜は老若男女は群をなし近村近郡より奉献する獅子舞乃如きは其は數を知らず實に參詣人は群集し雖乃餘地あらし已に夕刻に至れば御神輿御本宮へ還御あらせらる抑も御神輿渡御及び還御はとき供

奉行列れ人數は數千人よして宮司以下神官の騎馬數頭崇敬講耐氏子數百人並に御神輿講發起人其他倭舞人巫女或と奏樂八等よして徐歩間斷おく奏樂をおす御旗御太刀御寶物神馬立物等前後ゐ押し立て其の行莊れ靜肅嚴格なるおと自から神威靈德の著たるを發ゆ又先駈ゝ頭人れ一行ゐして上下ともゑ男頭人ゝ乘馬おり女頭人と何れも乘物おり又上下とも從者數百人其れ前後ゐ隨從す其れ儀衛盛嚴おるおと實ゑ驚くべし故に其れ撰ゑ當るもれは一世れ榮譽と云へり因ゑ記す御大祭乃先ゐ供ゐ加わりたる兒童數十人何れも素袍を着し太刀を振り大聲を放て順路を警戒するあり個は正平年間當國れ守紀川賴之御神輿れ供奉せ古例今尚存せりと云ふ又頭人と上頭下頭れ二偶ゐりて所謂大祭れ神戸是れおり此乃頭人は當國那珂郡小松の莊に於て男女四人乃善童を卜し以て之れゐ任ず毎年九月八日より十月十日迄三旬れ間御頭屋ゑ入マ潔齋謹戒するを古例とす又頭屋と其れ家筋ゐマ瘦井村四條村神野村大字五條象鄕村大字苗田乃各村ゐて石井石川守屋岡部和泉山下等の各家ゐマ此れを稱ず庄官と云ふ此の庄官の家く旬年順次隔番を以て頭屋を勤ひ故ゐ其の年其の番ゐ當マたる家乃邸内ゐて清潔れ地を撰ひ淨の材料を以て新に二間に四間の蓋舍を建設す是れ卽ち頭屋なり上下頭人二ケ所ゑ別れ三旬乃潔齋を此の内ゑて行ふ其れ間は順良の翁嫗を去て保傳たらしめ漫マゑ他人を入れるおとを許さず又此の頭屋ゑは口咲の神事御幣建宿初等れ儀式ゐマて大祭既ゐ終れと直ちに取り除け

其れ材料と悉く燒き燼せマ又小祭と毎年九月九日十日おマ當日れ概況を記すれゝ御神事と御本宮ゐ於て執行ず町々ゐ於てゝ何れも御饌物を捧げ又兩日とも太鼓臺燈出し青年輩數百人之れを擔き御本宮へ參拜ず夫より町々燈擔き廻マ夜ゑ入れと町家れ娘孃或と內町金山寺町乃藝娼妓等何れも善美燈裝ひ五人或は十人隊を組み三味線太鼓笛鼓弓或ゝ鼓等各其の長技燈演じ町中燈縱横に徐歩ず所望するもれあれば其乃家ゐ就て一曲燈演を其れ他生花或と作マ物等精燈凝し技燈鬪す其れ賑ひの雜踏おる事筆紙ゑ盡ず難し故ゑ御大祭ゝ勿論小祭と雖も近郡近國と素よマ山海万里れ波濤燈冒し遠國ゑ御祭典ゐ參會せんとて陸續來る者群燈おせマ爲ゐ數百軒の旅館何も旅客燈以て充滿せマ又商店と何も購客群燈おせり誠ゐ金刀比羅宮乃御神德最畏き事社ある

014025-000-2

特10-389

金刀比羅宮御由来付
琴平十二勝之事

出版社不明

M26

ABB-0278